

コアチームから得たアンケート

川西市認知症ケアネット（ケアパス）作成についてのアンケート （コアメンバー（認知症地域支援推進員）のリアクションアイデア）

ケアネット（地域包括型ケアパス）の作成に中心的な関わりをされました。全国展開に当たり参考に一連の経過を通してのご意見を下記に記述いただきたくお願いいたします。

1. 作業過程

第1段階（コアメンバーの結成・モチベーション、事前説明と理解）

○良かったこと

- ・ 事前説明に地域代表の方も参加されて良かった。
- ・ 事前説明で誰が関わるか、2か年計画などがわかり、住民の皆さん、地域包括内、事業所内に説明ができた。
- ・ 川西市の事業に参加できるということで大変やりがいを感じた。話す機会がなかった住民とも交流を深められるチャンスだと思い取り組んだ。
- ・ 29年度から認知症地域支援推進員が配置されたが、推進員としての業務が明確化されていない中、ケアネット作成を手掛けることができたことは推進員同士のチームワークの醸成と今後の推進員のなすべき役割や方向性を考える良い時間を持てた事。
- ・ 作業を進める中で、推進員の役割や今後の活動の仕方が見えてきた。
- ・ 推進員間のチーム意識が生まれ、よいチームになってきたと感じる。
- ・ 市内の認知症地域支援推進員が集まり、ケアネット作成という目標に向かい協力しあえたことにより、推進員の一体感が生まれた。
- ・ 認知症地域支援推進員が各包括に配置され、専任でケアネットに関する作業に従事する事が出来た事
- ・ 認知症地域支援推進員の間で、意見交換し、情報の共有を行う事で皆が思いを同じくする事が出来た。
- ・ 先輩方の新人に対する受け入れと忍耐強く教えてくださった事で、共に作り上げていくという思いを持つことが出来た。
- ・ 内容は難しいなりに理解しながら、「誰が当事者になっても使えるものとはどんなものか」を追求することや、他の推進員7人と意見を交換しながら1つのものを作っていくということに期待感があった。

○改善を要すること

- ・ 事前説明に認知症地域支援推進員以外の地域包括職員、医師会の方の同席も考えられる。
- ・ 座談会の説明をする際、どのように説明すれば理解、協力を得られるのか悩んだ。
- ・ 年度半ばの突然の話、かつ暫定版作成まで期間が短かったため負担は大きく感

じた。

- ・ 当初から推進員の地域包括型ケアネットに対する理解・知識不足があり、事前説明をもって(研究者)が提示くださった「座談会を展開する視点のモデル例」のシートをどのように座談会で展開しどこが着地点なのかも掴めない中で進めていた感がある。

そのためなのか住民の声・意見も多様で座談会のまとめ作業(住民意見の整理)も非常に手間取り時間がかかってしまった。ケアネットの事前勉強会を行ない住民参加型のケアネットを理解しその意義を共有するに十分な時間を取る事が必要ではないかと思う。

- ・ 事前説明を受ける段階で、ケアパスそのものの知識をもっておくことは必要。
- ・ ケアネット作成の過程に関して、しっかりと理解が出来ず、途中何度となく混乱することがあった。事前説明にはもう少し時間をかけた方が良いと思う。
- ・ 認知症地域支援推進員のケアネットに関する理解を深める時間を持つことが出来れば、よりスムーズに作業を行う事が出来たのではないかと思う。
- ・ 説明を受けてから推進員が共通した理解をするまでの時間が足りなかった印象でその後も同様に全員が統一した理解で作業を進めるのに時間が足りないと感じた。また、推進員以外の地域包括各職員の理解も得られないままスタートしたことも以降の作業に影響があったように思えます。

第2段階(住民座談会方式での実施)

○良かったこと

- ・ 社会福祉協議会の意見を聞き、開催場所を市内南北2か所にわけて良かった。
- ・ 施設長と地域包括の各職員の理解と協力があり、住民座談会参加の個別の声かけを行なえた。
- ・ 一般市民からの意見を直に聞くことができたこと。
- ・ 住民からも良かったとの感想があった。
- ・ グループの人数や時間配分は程良く、来られた方々に負担がないように思われた。
- ・ 来られた方のほとんどが“来てよかった”という感想を述べられたこと。
- ・ 若干ですが、若い方々の意見も聞くことができたこと。
- ・ 住民の方々と近い距離で話せ、小さなグループでの意見交換は、意見が出しにくい方も話せる機会となったと感じる。
- ・ 一般住民が直接参加して、地域作りに対して意見を聞けたことは良かった。今後もこのような住民座談会の開催は必要だと思う。
- ・ 参加して下さった方々の率直なご意見が頂けた事
- ・ 住民の方々に、「地域における認知症」について意識して頂けた事
- ・ 参加者自身が困っている事や経験した事、普段思っている事を話して下さった事で、他地域の事であっても共に考える事や情報を共有する事が出来た。
- ・ 人のつながりが希薄になっている時代の中で、人とのつながりを持つ事は大切に

あると感じている参加者が多かった。

- ・ 民生委員や福祉委員など現在ご活躍の方を極力除いて、世代や職種を超えて声をかけて座談会に出席していただいたことで、幅広い意見、新しい視点の意見や当事者の思い（生の声）をもらうことができた。

○改善を要すること

- ・ 今後、ケアネットが多くの方に利用される為に、住民座談会開催4回のどこかで、居宅ケアマネ、医師会などの見学も考えられる。
- ・ 「願い」の意味がわかりにくく、住民の理解も難しい。話も発展しにくい印象だった。
- ・ 今回北と南の2会場だったが、この2会場での意見だけでよかったどうか。
- ・ 座談会の時間配分は改善が必要。（研究者）の話が押して住民の意見を聞く時間が短くなった。
- ・ KJ法はまとめやすいが、住民が意見を言いやすかったかどうか疑問が残る。
- ・ KJ法では自由に話すというより作業の1つという印象を受けた。
- ・ このような取り組みを行う上では一般参加者の募り方に工夫がいると感じた。まず、福祉活動をされている方やPTAの若い世代など、地域の中核的な方々に説明の機会を持ち、ご理解・ご協力いただくことができれば幅広い層からより多くの参加者を確保できたのではないかと思う。
また説明資料を市域共通のもので作成してあれば推進員の負担感が軽減できたのではないかと思う。
- ・ 川西市の人口に対し、参加人数が少ないのではないかと感じる。
- ・ 早めから、そして広くの周知をし、より多くの住民の方にご参加いただけるように配慮したほうが良いのではないかと感じる。
- ・ ケアネット作成にあたり、推進員自身がしっかり理解できていなかったため、住民座談会に協力した他の包括職員も意図を理解できないまま進んでしまった。
- ・ 住民の方をお誘いするのに、ケアネットをしっかりと理解が出来ておらず、説明が上手くできなかった。その為に、「何のことか、分からないから」という厳しいご意見も頂いた。
- ・ 開催場所への交通手段や料金の事で、参加が難しいと言われた。
- ・ KJ法での進め方やファシリテーターの話す内容など、ファシリテーターの理解や経験値によって違う事があった。
- ・ 座談会で話し合って頂く議題における視点が理解できていなかった為、参加者に十分な説明が出来なかった。
- ・ 住民座談会の参加人数が約100人であったが、この人数が適当なのかが分からないが、これから当事者となる20代から50代の方の出席でできるようにできたら尚良かったと思います。高齢社会ではあるが、高齢者だけで地域を構成しているわけではなく、全部の世代でこれからの地域をつくっていくという一体感が生まれるようにできたらと思う。

第3段階（暫定版のとりまとめ）

○良かったこと

- ・ 住民座談会4回、約200名の方の意見を大切に取り入れられた。
- ・ 元気な時から取り組めることが、わかりやすい。
- ・ 住民の目線に立ってケアパスの中身を考えることが出来た。また住民の意見を元に推進員達で散歩マップの作成や、高齢者110番、道の駅のような憩いの場を作るというような新たな取り組みを考え出し発展させることを目指す目標が出来た。
- ・ 地域住民の声をカテゴリー別（島）に分けることにより、日頃からの心がけを立場別に示すことができ、わかりやすく活用しやすい暫定版ができています。
- ・ 意見のひとつひとつを大切に扱うように心がけ、そのことをご理解いただくことが出来た。
- ・ この段階で、ケアネット作成の意図が理解でき、活発に推進員間で意見交換が出来た。
- ・ 認知症地域支援推進員の間で多くの議論や話し合いをする事が出来た事によりお互いの認識を合わせながら進めることが出来た。
- ・ 一つずつ進める事で、時間は多く要したが、参加者の意見を大切に取りまとめる事が出来たと思う。
- ・ 一体感を持ち、進める事が出来た。
- ・ 座談会で出た一人ずつのご意見、思いを丁寧に取り上げることができた。
- ・ 推進員で話し合っ、ある程度説明したら理解してもらえらる程度の内容までできたこと。

○改善を要すること

- ・ より見やすく、わかりやすいケアネットに改善していく為に、3小学校地区のキャラバンメイト連絡会で意見を聞きます 3/12、19、23。
- ・ 暫定版が出来てからの見直し期間が、もう少し必要であると感じた。暫定版を披露する前に、地域住民に見てもらい理解できるかどうか伺う機会があっても良かったのではないかと感じる。
- ・ 他の業務との兼ね合いが難しい。住民の意見をとりまとめる際、休日に作業をしなければならないことがあった。
- ・ 島の整理がもう少しできないか？
- ・ 具体的な取り組みを記入できれば。
- ・ 絵などを使って視覚的に見やすいものも検討したい。
- ・ 文字の大きさ、文字体 色合いなど再検討
- ・ 資料の取りまとめや作成などをひとりの推進員が担う形になり負担が大きかったのではないと思う。そのため確定版作成時には役割分担をして、ひとりへの負担が過度なものにならない工夫が必要ではないかと感じる。
- ・ 推進員が全員集まることが出来ない日が多々あったので、もっと早い段階で日程を決めておき、何よりもケアネット作成を優先すべきだった。

- ・ 資料作成の初めの頃は、なぜ？視点は？と疑問に思う事ばかりで理解が追い付かなかった。
- ・ 意見の数が膨大であることに加え、出来上がりの姿が皆が同じ内容で共有できなかったことが、時間がかかる要因になった。

2. 地域包括型ケアネット作成に関わりご自身で獲得したこと

- ・ 住民座談会で住民の取り組み、気持ちがわかり、今後の活動に活かしたい。
- ・ 各地域包括の認知症地域支援推進員と連携をとるキッカケになった。
- ・ 認知症地域支援推進員は独りではできないと改めて学べた。
- ・ 座談会の事前説明や座談会当日に出席することによって、住民がどのような思いで生活しているかを知るきっかけになり、今後の生活や認知症に対して不安を抱えている方が多いという現状を理解した。
- ・ 座談会を通して、地域性はあるものの住民の力を知るきっかけになった。
- ・ 川西市が実施しているサービス内容や制度、認知症に関する症状等の話し合いを重ねることで、川西市のサービス内容や認知症への理解が深まったと感じる。
- ・ ケアパス会議をきっかけに推進員同士のコミュニケーションが密になり、信頼関係が深まった。
- ・ 包括の職員同士でも議論することによって、住民が安心して生活する為に何が必要なのか客観的に考えるきっかけができた。
- ・ 座談会では住民の皆様が日ごろから助け合い支えあっておられる事が伝わった。
- ・ 今回このケアネット作成にかかわり我々推進員が皆様お一人お一人の力を活かすために、どのようなシステムをつくり、後押しをどのようにするのか、が今後とても重要なところであり、その役割を実行していくことで出来上がった川西の住民参加型ケアネットを本物のケアパスにしたいと思った事。
- ・ 参加住民からどれだけのご意見が引き出せるか、ファシリテーターの視点を理解することが出来た。
- ・ チームで一丸となって取り組むことで、様々な視点を知ることが出来た。
- ・ これだけ認知症になる人が増えてしまうと、行政だけの支援では不十分であり認知症になる前から、本人や家族、地域などが認知症になって住みやすい環境を作っていかなければ危機的な状況であることを実感できた。
- ・ 認知症を切り口に実施した座談会でしたが、地域の方々が色々な所で、1人暮らしの方への声かけや90代のご婦人が続けておられる昔ながらのご近所とお付き合い（おかずの差し入れや買い物へ行く際の声かけなど）、様々な事をされている事に気づかされました。
- ・ ケアネット作成にあたり、自分の地域とのかかわりの薄さに改めて気づかされました。
- ・ 住民の生の声を初めて聞けたような良い経験ができた。
- ・ 介護者の切実な部分を改めて聞けて、更にリーダーとなり得る方と知り合い一緒に地域をつくって行こうという共通した目的が持てるようになった。

- ・ 世代と職種関係なく、幅広く意見をいただいたことで、物事を狭い視野で捉えていた自分に気づくこともできた。

3. 全国展開のために全国の認知症地域支援推進員に伝えるべき事項・内容の要点

- ・ 住民座談会参加者は個別の声掛けとその方からの紹介が多かった。
- ・ 住民座談会の雰囲気作りも大切。
- ・ 住民座談会を続けて開催するなら2回目の開催前に再度、案内があるといい。
- ・ 住民の意見は市内で1、2か所でも実現できる可能性があれば大切にする。
- ・ ケアパスに新たな事業を付け加え、推進員同士が協働で事業を立ち上げてもいいのではないか。（例：住民同士の憩いの場、ベンチ、橙110番）
- ・ ケアパス作成の為に住民の力が必要だと、住民達に訴えて行く機会を定期的に設けるべき。住民の理解が得られないと、始まらない事業なので。
- ・ 市の事業であるということを伝えると安心感が得られたという住民がいたので市の事業の一環で取り組むということも大々的にアピールするべき。
- ・ 間近に迫る超高齢化社会に向けて推進員は何をすべきかと考えると認知症予防をはじめ早期発見・治療、認知症理解の取り組み等多岐にわたるが、それらを進めながら啓発・広報していくにはかなりの時間がかかる。

住民を巻き込んだケアネットは、住民自らができる事、しなければならない事を意識づけるものでもあり、認知症になっても住み続けることのできる将来の社会を地域住民で作り上げることへの意義を感じてもらえるものでもある。その為には推進員自身に住民の気持ちを巻き込み、我が街のケアパスをつくる！という強い思いが必要。そして地域包括型ケアネットのコンセプトをしっかりと把握し、その意義を共有しながらモチベーションを維持し進めていくことが重要な点だと伝えたい。

- ・ 住民の力を引き出す、また行動に起こしていただくための声かけ方法。
- ・ 認知症は誰もがかかる可能性があるとい当事者意識をもってもらうための工夫
- ・ フォーマルサービスだけでは、これからの認知症対策は不十分だし、自分たちが元気なうちに認知症になった時に考えておかいないと手遅れになってしまうことをしっかりと胆に銘じてほしい。
- ・ 同じものを作り上げるにあたり、共通認識や情報共有を行う事やたくさんの議論を行う事は大切な事だと感じました。
- ・ 専門職として考えてしまうと視点がずれてしまい、気づきにくい事も出てくるかもしれない。
- ・ これまでのケアパスは本人の状態に合わせて支援を受ける流れを一見して見渡せるものである。この度作成したケアパス（ケアネット）と決定的に異なる点がどこなのか理解していただいた上で、認知症になる前からのそれぞれの立場からできる心構えや備え（具体的な行動）が大切であること。
- ・ ケアネットそのものだけでなく、座談会を含め作成過程もすでに地域づくりが始まっているという意識で臨むことも大切である。

4. 30年度におけるケアネット確定版作成作業に当たり注意すべき事項・内容の要点

- ・ 年間計画を立てる。
- ・ 追加資料を作成する必要がある。（フォーマル資料の連絡先・認知症の症状・言葉遣いの見直し・語句の加削除）
- ・ つながりノートⅢと合わさった時、どのように使用することになるのか説明が必要。
- ・ 暫定版ケアパスの使用方法説明会にて、推進員の説明が統一できるようマニュアル作りが必要。
- ・ 暫定版ケアパスの使用方法説明会を定期的で開催し、改めて一般市民の意見を伺う。出た意見を元に確定版ケアパスを作成する。
- ・ 住民座談会にて住民が発言した言葉を元に川西市のケアパスが誕生したともっとアピールしても良いのではないかと。他市にはない特性なので。また、ケアパスの最後の部分にでも、住民座談会で発言した言葉を記載してはどうか。
- ・ 座談会の開催を継続し、新しい知恵の創造やインフォーマルの抽出
- ・ 改善点を踏まえた座談会の開催を行なうこと。
- ・ 住民の力を引き出す、また行動に起こしていただくための声かけ方法。
- ・ 認知症は誰もがかかる可能性があるとい当事者意識をもってもらうための工夫
- ・ 地域包括型ケアネット作成する前に、しっかりとこのケアネット作成の意図を理解しておかないと混乱してしまうと思う。まず、事前の理解にしっかりと時間をかけるべきだと思う。
- ・ 実際に使う人の視点に立ったものになっているのか？
- ・ ケアマネージャーなどが使用する際に使いやすい物になっているか？
- ・ 暫定版に書いたものは、実際に稼働させることが出来るのか？
など、改めて見直し、地域の方々のご意見も反映させながらより良い物へしていきたい。
- ・ 住民の意見を大切にすることを忘れず、いつの間にか推進員だけで作っていたことにならないように留意していきたい。
- ・ 推進員全員が作成の進め方を統一して進めていけるようにしていきたい。